

実り多き一年に

校 長 武井 正明

2025 年が幕を開けた。皆さんはどんな年にしたい？そんなこんなで「行く一月」も、もう折り返し。今年はどうな一年になるか。今年も頑張りましょう。

昨年末、生徒会本部役員・各専門委員長に立候補者した人たちの面接が、担当教諭と新三役で行われました。

新三役の三人には、事前に私から、人が人を選ぶことの難しさと重さを伝えました。

話を聞く三人の、謙虚で誠実な、澄んだ眼を見ていると、さすがこれからの吉田中を担うリーダー達だと、あらためて確信したものです。

立候補者は皆、誠実に準備をして面接に臨んでいたと聞きました。彼らの態度は素晴らしく、全く甲乙つけ難い状況です、と担当教諭から嬉しい報告を受けました。

その面接内容を記録した用紙を拝見しました。各人ビジョンの具体性や、意欲、協調性、発想力、責任感など、様々な観点に基づいている。評価はすべて、僅差もしくは同点。学級でも必要とされる人材とのバランスも大事です。適材適所で存分に、個々の力量を発揮してもらいたい…。新三役は担当教諭と悩み抜き、熟議したことでしょう。

結果は既に本人達に伝えられ、今朝、任命式と委嘱式が行われました。

三役も新役員も、立派な態度でした。役員代表の新選挙管理委員長の挨拶が見事だった。

残念ながら今回は、その選に漏れた人もいます。彼らの姿を悔しい思いで見ている人もいただろう。どんなにきれいごとを言っても、不合格は不合格である。皆受かるために面接に臨んだはずだ。悔しくないはずがない。立ち直りまで、かなり時間を要するときもある。

私はこれまでの人生で、試験と面接で計6回不合格になった。その経験者として断言できることがある。それは「不合格がその人を二倍も三倍も強くし、伸ばしていく」ということだ。そして、その経験は、若いうちがいい。

これから先、皆さんには、まだまだ学級なり、生徒会なり、部活動なり、重要な役目が用意されている。たとえ中学時代に芽が出なくても、その先で飛躍的に伸びる人もいます。大事なものは「その時」のためにしっかり準備することだ。準備ができたことを「機が熟する」という。そして花開いた時、その人は「大器晩成」だと言われる。今の君たちは、振り向いている時ではない。

三年生は私立受験がいよいよ近い。勝負の二か月だ。「選ばれる側」の苦しさも、人生には必要な経験だ。健康に留意して頑張れ!! 吉中教職員は全力で支援する。

今年は巳年。蛇の如く何度も脱皮を繰り返し、急成長を遂げる一年にしようじゃないか。